2021/12/11(土)15:03

科目名	ガラス工芸実習Ⅰ	年次	3	単位数	4
授業期間	2021年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	山野　宏				
クラス名					

授業目的と到達目標
実際に使うことを考慮したテーブルウエアー、器などをデザインし制作することで発想とデザイン能力を養い、同時に吹きガラス技法のさらなる技術習得を目指します。作品制作の前にコンセプトボードを制作し、パワーポイントによるプレゼンテーションを行いプレゼン能力の向上も目指します。
授業概要
対面授業 アイディアスケッチに基づくヂスカッション、プレゼンテーション、制作技法デモ、制作実習、講評会の順序で授業を基本的に進めます。
受講上の注意
吹きガラス工房では必ず綿の作業服を着用する事。 ハイヒールでの制作は禁止します。 教員、助手の指示に従い安全な作業を心がけてください。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
制作作品	50
プレゼンテーション	50

教科書情報			
教科書１			
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
ガラス工芸作家　ガラス工房経営

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	「自分のタンブラー』の課題説明、球体の制作デモ
2	アイディアスケッチ提出／面談 制作実習
3	面談／デモ 制作実習
4	面談／デモ 制作実習
5	パワーポイントによる作品プレゼンテーション／ボード提出 講評会
6	タンブラーの制作実習　各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
7	タンブラーの制作実習　各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
8	「自分の花器」の課題説明、制作デモ タンブラー制作実技試験
9	アイディアスケッチ提出／面談 タンブラー制作実技試験
１０	面談／デモ タンブラー制作実技試験
１１	パワーポイントによるプレゼンテーション／プレゼンテーションボード提出 講評会 タンブラー制作実技試験
１２	花器の制作実習、各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
１３	花器の制作実習、各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
１４	花器制作実習
１５	前期講評会
１６	「飲器と食器」課題説明　制作デモ 制作実習
１７	アイディアスケッチ提出／面談 制作実技試験
１８	面談／デモ 制作実習
１９	面談／デモ 制作実習
２０	パワーポイントによるプレゼンテーション／プレゼンテーションボード提出 講評会
２１	制作実習、各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
２２	制作実習、各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
２３	制作実習
２４	「自分のテーブル」課題説明　制作デモ 制作実習
２５	面談／デモ 制作実習
２６	パワーポイントによるプレゼンテーション／プレゼンテーションボード提出 講評会
２７	制作実習、各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
２８	制作実習、各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
２９	制作実習
３０	講評会

2021/12/11(土)15:04

科目名	ガラス工芸実習Ⅱ	年次	3	単位数	4
授業期間	2021年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	山野　宏				
クラス名					

授業目的と到達目標
前期／型作り、ホットキャスト、ホットワーク、コールドワーク技法をさらに習得し、立体物による制作コンセプト表現を学びます。 後期／グループ展のための複数の作品制作を通し各々の制作スタイルを模索すると同時に、コンセプトを作品で表現することの経験を深め、卒業制作の前段階の準備をする。
授業概要
対面授業 前期／ホットキャスティング、吹きガラス、コールドワーク技法を活用し、課題に沿って立体表現について学習します。 後期／様々な技法を活用し、各々の学生の制作コンセプト基づいて数展の作品を制作し、後期末にグループ展を行います。
受講上の注意
吹きガラス工房では必ず綿の作業服を着用する。 ハイヒールでの作業は禁止します。 教員及び助手の指示に従い安全に作業を行いましょう。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
制作作品	70
プレゼンテーション	30

教科書情報			
教科書１			
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験
ガラス工芸作家　ガラス工房経営

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	サンドキャスト、水砂キャストの技法解説とデモ 課題説明
2	モールドミックスキャストの技法説明とデモ 課題説明
3	モールドミックスキャストの技法説明とデモ 課題説明
4	アイディアスケッチ提出／面談
5	面談、制作実習
6	課題説明 ホットキャスト技法と吹きガラス技法を使った作品制作／技法解説／デモ
7	アイディアスケッチ提出／面談
8	面談、制作実習
9	面談、制作実習
１０	課題説明 吹きガラス技法、ホットキャスト技法、コールドワーク技法を使った作品制作／技法解説／デモ
１１	アイディアスケッチ提出／面談
１２	面談、制作実習
１３	面談、制作実習
１４	制作実習
１５	講評会
１６	後期課題説明／グループ展の開催について
１７	アイディアスケッチを通しての面談
１８	アイディアスケッチを通しての面談
１９	プレゼンテーションの為の資料提出／面談
２０	制作プレゼンテーション／講評会
２１	制作実習／制作アドバイス
２２	制作実習／制作アドバイス
２３	制作実習／銅メッキ技法説明
２４	制作実習／銅メッキ技法説明／金属色付技法解説
２５	制作実習／金属色付技法解説／ガラス接着技法解説
２６	制作実習／ガラス接着技法解説
２７	制作実習
２８	制作実習
２９	講評会
３０	作品の写真撮影指導

2021/12/11(土)15:01

科目名	金工実習Ⅰ	年次	3	単位数	4
授業期間	2021年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	足立　正毅、水野　年彦				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業目的：ガス型鋳造・蝋型鋳造技法における、それぞれの造形性と 技法・技術の違いを理解する。 到達目標：ガス型及び蝋型技法による鋳造２作品の制作。
授業概要
【対面授業】 前期：第一課題「ガス型鋳造による作品制作」と、その展示。 後期：第二課題「蝋型鋳造による作品制作」と、その展示。 担当教員ともに授業課題の内容に即した作品制作研究等の実務経験を有する。
受講上の注意
作品制作にあたって構想の段階から技法・素材・展示方法などを含め、充分な検討を行っておくこと。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
提出物	20
制作作品	80

教科書情報			
教科書１	参考資料配布		
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
鋳金作家が指導にあたります。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	【対面】 「ガス型鋳造作品」課題説明、原形制作。
2	【対面】 原形制作。
3	【対面】 原形制作。
4	【対面】 原形制作。 鋳型制作。
5	【対面】 原形制作。 鋳型制作。
6	【対面】 鋳型制作。
7	【対面】 鋳型制作。
8	【対面】 鋳型制作。 鋳込み。
9	【対面】 鋳込み。
１０	【対面】 鋳物仕上げ。
１１	【対面】 鋳物仕上げ。
１２	【対面】 鋳物仕上げ。
１３	【対面】 作品展示部品及び、展示台制作。 作品仕上げ。
１４	【対面】 作品展示部品及び、展示台制作。 作品仕上げ。
１５	【対面】 作品提出、合評。
１６	【対面】 「蝋型鋳造作品」課題説明、作品資料配布。 蝋型原型材料作り。
１７	【対面】 「蝋型鋳造作品」制作構想図提出、構想検討。 蝋型原型材料作り。
１８	【対面】 「蝋型鋳造作品」構想検討。 蝋型原型材料作り。 蝋型原型制作。
１９	【対面】 蝋型原型制作。
２０	【対面】 蝋型原型制作。
２１	【対面】 蝋型原型制作。 蝋型原型埋没。
２２	【対面】 蝋型原型埋没。 鋳型焼成。

２３	【対面】 蝋型原型埋没。 鋳型焼成。
２４	【対面】 鋳込み。
２５	【対面】 鋳込み。
２６	【対面】 鋳物仕上げ。
２７	【対面】 鋳物仕上げ。
２８	【対面】 作品展示部品及び、展示台制作。 作品仕上げ。
２９	【対面】 作品展示部品及び、展示台制作。 作品仕上げ。
３０	【対面】 作品提出、合評。

2021/12/11(土)15:02

科目名	金工実習Ⅱ	年次	3	単位数	4
授業期間	2021年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	長谷川　政弘、佐藤　享弘				
クラス名					

授業目的と到達目標

アセチレン溶接、MIG溶接などの溶接機材の取り扱いを学び、溶接技術を習得する。安全でスムーズな溶接作業ができ、鉄素材の特性を理解する事を目標とする。

「折る・曲げる」作業を通して金属の性質を理解し、立体（身につけられる）を構築するための基本的な方法を学ぶ。作品自体の質のみならず、作品と身体との関りについての理解を深めることを目標とする。

後期は展覧会での作品発表を前提とした作品を制作し、そこで得たものを4回生の制作につなげる。

授業概要

※前・後期ともに対面授業

前期は「鉄課題」(A班)と「ジュエリー課題」(B班) の2課題を行う。

・「鉄課題」(A班)：アセチレンガスや電気溶接機を使って溶接、溶断の練習を行ったのち鉄板で来年の干支「寅」を制作する。

・「ジュエリー課題」(B班) ：銅の板材を「折る・曲げる」ことによって、手のひらに収まる程度の大きさのペンダントトップを制作する。

後期は「環境と向き合う」をテーマに作品を制作する。

受講上の注意

A班「鉄課題」： 鉄でつくられた彫刻作品、工芸作品を調べてパワーポイ ントで編集し授業内で発表してもらいます。 5月にアセチレンガス技能講習修了証を取得してもらいます。 完成作品はすべてポートフォリオを制作してもらいます。

B班「ジュエリー課題」： ジュエリー作家の作品の中から「好きな作品」と「嫌いな作品」を各一点づつ選び出してパワーポイ ントで編集し授業内で発表してもらいます（「好き・嫌い」の理由も編集資料の中で文字として簡潔に説明して下さい。）。また、完成作品の提出時には作品が身につけられた状態の写真も併せて提出して下さい。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
授業に取り組む姿勢	40
作品構想、完成作品	60

教科書情報

教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	

教科書３			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名１	ジュエリー課題：「アフォーダンス入門－知性はどこに生まれるか」		
出版社名	講談社	著者名	佐々木正人
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
B班：「ジュエリー課題」：「TALENTE」「SCHMUCK」等のジュエリー作品のカタログが図書館または研究室に収められていますので参考にしてください。
教員実務経験
長谷川政弘　金属造形作家 佐藤享弘：ジュエリー作家、広告代理店空間デザイン部勤務

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	A班B班合同ガイダンス 学生によるパワーポイントを使ったプレゼンテーション（オマージュ作家について） B班「ジュエリー課題」：参加者はガイダンス後に前期課題内容についての説明をします。
2	A班：鉄課題「干支(丑)」 アセチレン溶断、エアープラズマー溶断の実技講習
3	アセチレン溶接、MIG溶接の実技講習
4	干支制作:アイデア提出、紙による模型つくり
5	干支制作:溶断、切断
6	干支制作:成形(曲げ、叩きなど)溶接
7	干支制作:仕上げ→完成
8	B班：ジュエリー課題 「小立体－ペンダントトップ」 ・金属板を「折る・曲げる」方法の説明と練習
9	・かたち、構造等のチェック ・制作（折る・叩く・曲げる）
１０	・制作（折る・叩く・曲げる）
１１	・制作（組み立て、成形）
１２	・制作（組み立て、成形）
１３	・制作（仕上げ） ・写真撮影（装着された状態）
１４	学外授業
１５	「鉄課題」「ジュエリー課題」合同合評　後期課題の導入
１６	後期課題「環境と向き合う」置かれる環境と作品について考える 教員によるレクチャーと学生によるパワーポイントを使ったプレゼンテーション

１７	学外講師による特別授業
１８	アイデアと制作構想の発表１
１９	アイデアと制作構想の発表２
２０	作品制作１
２１	作品制作２
２２	作品制作３
２３	作品制作４
２４	作品進行状況の中間報告
２５	作品制作５
２６	作品制作６
２７	作品制作７
２８	作品制作８
２９	画像パネル制作　大学内ギャラリー展示準備
３０	「環境と向き合う」大学内ギャラリーでの公開合評

2021/12/11(土)15:06

科目名	工芸製図	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	井上　剛				
クラス名	【１９生対象】				

授業目的と到達目標
第三者とのイメージの相互理解が必要な場合、図面を介することは非常に有効な手段であり、生産、製作の上では必須となっている。この授業を通して基本的な製図法を理解し、図面の「読み」「書き」を実践する。 　正投影法をはじめとする基本的な製図法を理解し、第三者に伝達する為に必要な作図力を身につけることを目的とする。
授業概要
【対面授業】 製図に関する基本知識の学習をと基礎実習作業を通し、第一に「伝える」ための方法を習得し、その後、与えられた図面からそれを実製作することで双方の立場にたって製図に対する理解を深める。 　教員は、建築やデザインに関する業務実績を活かしより具体的で実践的な指導をする。
受講上の注意
各種製図法（投影法）についての予習

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
実習課題	80
習熟と理解	10
その他の提出物	10

教科書情報			
教科書１	「製図実習」セラミックコース		
出版社名	大阪芸術大学刊	著者名	南和伸
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
ガラス作家／プロダクトデザイナー、建築家、企業などと協業して、様々なガラス作品、製品などを制作

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	授業ガイダンス／準備物の説明／概要「製図とは？」／課題説明
2	課題１.線の練習１ 製図法の概要／製図に用いられる「線種」の理解
3	課題１.線の練習２ 各種の「線」を引く練習
4	課題２. 図面の模写＆デッサン１ 製図の模写ー模写を通して、作図の行程を実践、理解する（下図）
5	課題２. 図面の模写＆デッサン?２ 製図の模写ー模写を通して、作図の行程を実践、理解する（作図）
6	課題２. 図面の模写＆デッサン３ 製図の模写ー模写を通して、作図の行程を実践、理解する（仕上げ）
7	課題２. 図面の模写＆デッサン４ 完成した図面から形状を読み取り、イメージデッサンで立体的に描写する
8	投影法について 各投影法の特徴の理解、小プリントによる読図のトレーニング 課題３の課題説明
9	課題３. マグカップの製図「現物の実測～作図まで」１ 各自持参したマグカップを採寸し、フリーハンドで下書きする
１０	課題３. マグカップの製図「現物の実測～作図まで」２ フリーハンドの下書きのチェック→本製図のための下書き
１１	課題３. マグカップの製図「現物の実測～作図まで」３ 製図作業
１２	課題３. マグカップの製図「現物の実測～作図まで」４ 製図作業
１３	課題３. マグカップの製図「現物の実測～作図まで」５ 図面完成→提出
１４	造形演習「美しいかたち」１ 各自「美しいかたち」についてリサーチ
１５	造形演習「美しいかたち」２ 「美しいかたち」要素の再構成／粘土による造形の試み（エスキース）
１６	造形演習「美しいかたち」４ 前期に作成したエスキースを基に石膏モデリング
１７	造形演習「美しいかたち」５ 石膏モデルの制作
１８	造形演習「美しいかたち」６ 石膏モデルの完成→提出
１９	課題４. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」１ 課題説明／企画立案
２０	課題４. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」２ リサーチ／プレゼンテーション資料の作成
２１	課題４. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」３ プレゼンテーション資料の作成
２２	課題４. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」４ ロールプレイング「新製品社内コンペ」
２３	課題４. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」５ 量産を前提として「デザイン→製図」
２４	課題４. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」６ 製図作業
２５	課題４. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」７ 製図作業
２６	課題４. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」８ 製図作業

２７	課題４. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」９ 図面提出、モデリング（マケット）作成準備
２８	課題４. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」１０ 製品モデル（マケット）製作作業
２９	課題４. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」１１ 製品モデル（マケット）製作作業
３０	課題４. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」１２ 最終提出／講評会／授業総括

2021/12/11(土)15:06

科目名	工芸製図	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	小野山　和代、尾原　久永				
クラス名	【１９生対象】				

授業目的と到達目標
（前期　尾原） デザイナーとして必要な製図の基礎知識を習得し、デジタルツールを応用出来るスキルを養う。 （後期　小野山） テキスタイル・染織コースでは、着物の裁ち方や洋服のパターンの知識も必要となる。後期は和裁の基本を習得することを目的とし、作品制作における構想やデザインをより具体的に描画できる能力を養う。
授業概要
【対面授業】 （前期　尾原） デザイン系ソフトを使った製図の基本からスタートし、部屋空間をレイアウトする平面図作成から簡単なパース図作成までを行う。 （後期　小野山） 着物の歴史について学び、自らが染色した浴衣地を用いて実際に浴衣を縫う。
受講上の注意
受講、実習内容がより理解・習得できるように自己啓発すること。また、 遅刻・私語は慎むこと。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
提出作品	80%
制作構想（平常授業態度、発表など含む）	20%

教科書情報			
教科書１	必要に応じてプリントを配布します。		
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
授業内容は予定であり、特別講義や展覧会見学などで変更する場合もある。

教員実務経験
(前期　尾原）デザイン制作会社を経営する教員が、実務経験を基にCGを活用したデザイン制作に必要な製図知識の指導をする。 (後期　小野山）染織家として着尺制作の経験や着物仕立ての知識のある教員が、着尺の裁断から縫いまでの工程を指導する。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	前期 立体の表現方法、製図とCADに関する基本的な説明。 デザイン系ソフト：Illustratorの説明。基本操作の実技。
2	点・線・面の作図練習（基礎）
3	点・線・面の作図練習（応用）
4	身近な製品の2D製図作成【基本編】（1） スケッチから製図への展開
5	身近な製品の2D製図作成【基本編】（2） 線画ツールの習得
6	身近な製品の2D製図作成【基本編】（3） 線画ツールの習得
7	身近な製品の2D製図作成【応用編】（1） 面処理の習得
8	身近な製品の2D製図作成【応用編】（2） 面処理の習得と立体表現
9	身近な製品の2D製図作成【応用編】（3） 平面図と立面図の制作
１０	住空間の平面図作成（1） 平面図の制作
１１	住空間の平面図作成（2） 平面図と立面図の制作
１２	製図実習（1） 居住空間における実寸把握作図習得
１３	製図実習（2） 居住空間における実寸把握作図習得
１４	製図実習（3） 居住空間における実寸把握作図習得
１５	合評・総評
１６	後期 着物についての歴史的考察（スライドを中心として）
１７	反物（浴衣地）の上に各部のサイズを記入する
１８	反物（浴衣地）の上に各部のサイズを記入する
１９	袖を縫うことから始める
２０	身頃を縫う
２１	身頃を縫う
２２	脇を縫う
２３	脇を縫う
２４	衽を縫う
２５	衽を縫う
２６	衿をつける
２７	袖をつける
２８	細部の仕上げ 着物のたたみ方を学ぶ 小下絵を描く（自分が着たい着物、染めたい着物、織りたい着物を想定して模様を描く）
２９	日本と西洋の衣服の違いを知り構造を確かめる
３０	各自の縫った浴衣を着用してプレゼンテーション　合評

2021/12/11(土)15:06

科目名	工芸製図	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	長谷川　政弘				
クラス名	【１９生対象】				

授業目的と到達目標
図面とは、立体物をつくるすべての仕事において制作者の意向を伝えることができる重要な「共通言語」です。製図の基本を理解し、ものづくりのコミュニケーションを円滑にする事を目的とします。 これから制作しようとする立体作品のアイデアを図面化することができ、逆に図面を読み取り、立体にイメージできる能力を身につける事を目標とします。
授業概要
対面授業 前期は線の種類や使い方を知り、実際にある具体的なものを図面化する事によって、三面図の基本を理解します。 後期は、まだ実在しない架空のもの(プラン)を図面化します。フリー曲線を使った作図やもう一つの平面表現であるレンダリングも学習します。最終的には個々がオリジナルグッズを発案・企画・提案し、全体の流れを通して図面の重要性を学びます。
受講上の注意
商品にはチラシやパンフレットがあります。その中には商品の説明、使用方法、価格など様々な情報が入っており消費者に購買意欲を持たせるための工夫がなされています。最後の課題は皆さんにオリジナルグッズを企画してもらい、図面とプレゼンボードにてプレゼンテーションをしてもらいます。商品のチラシを集めるなどして日頃から研究しておいて下さい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
制作した図面、レポート、提出物	60
授業に取り組む姿勢	40

教科書情報			
教科書１	作図法など必要な資料は配布します。		
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名１	プロダクトデザインのための製図		
出版社名	日本出版サービス	著者名	清水吉治/川崎晃義
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	

参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
作図を伴った工芸作品の制作経験の豊富な教員が指導を行います。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	授業説明:年間の計画、図面の必要性、製図の基本を知る(三面図、三角法、線の種類や役割)
2	「練習問題」三面図の理解
3	練習問題の回答 「線の練習1」T定規の使い方、実線、破線
4	「線の練習2」一点鎖線、二点鎖線、特殊な線
5	「姿図からの作図」正式な図面の書き方、枠線、表題など
6	「姿図からの作図」レイアウト、外形線
7	「姿図からの作図」引き出し線、寸法線、寸法記入→完成
8	「木槌の作図」木槌の採寸
9	「木槌の作図」レイアウトの為の下書き
１０	「木槌の作図」枠線、表題
１１	「木槌の作図」外形線、面取りやRの指定、断面図
１２	「木槌の作図」引き出し線、寸法線、寸法記入→完成
１３	「青銅の蓋物の作図」鋳金実習で制作中の作品を図面化します。原型を採寸→下書き
１４	「青銅の蓋物の作図」枠線、表題、外形線、断面図
１５	「青銅の蓋物の作図」引き出し線、寸法線、寸法記入→完成 次課題「中空構造の自由形態」課題説明
１６	キャラクター人形の採寸→下書き
１７	キャラクター人形の作図１
１８	キャラクター人形の作図２
１９	キャラクター人形の作図３
２０	キャラクター人形レンダリング１
２１	キャラクター人形レンダリング２　「オリジナルキャラクターグッズ」課題説明
２２	「オリジナルキャラクターグッズの企画」アイデアスケッチ→アイデアチェック
２３	「オリジナルキャラクターグッズの企画」油土原型制作
２４	「オリジナルキャラクターグッズの企画」寸法採寸→下書き
２５	「オリジナルキャラクターグッズの企画」作図１
２６	「オリジナルキャラクターグッズの企画」作図２
２７	「オリジナルキャラクターグッズの企画」作図３→完成
２８	「オリジナルキャラクターグッズの企画」プレゼンボード制作１
２９	「オリジナルキャラクターグッズの企画」プレゼンボード制作２→完成
３０	「オリジナルキャラクターグッズの企画」プレゼンテーション、合評

2021/12/11(土)15:06

科目名	工芸製図	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	南　和伸				
クラス名	【１９生対象】				

授業目的と到達目標
正投影法の理解に始まり、陶磁器製図における図示法の理解と修得を図る。其の中にも、図面を正しく読む・作図の手順を知る・図面の様式等を知る、更に陶磁器慣例図示法の理解を得る事により、陶磁器成形段階での正しい考察力を身に付ける。
授業概要
対面授業 新しくデザインされた器物を生産する場合、デザインした計画を第三者に伝達するためには、正確な図面が必要である。直線の組み合わせによる形態、直線とコンパスＲによる単純な形態、直線と複数のコンパスＲによる形態、中心線を用いた断面図などの作図の中で、数々の機能を持つ陶磁器のデザインを考察し、各形態に応じた図形・寸法の表し方を修得する。
受講上の注意
時間内で処理対応出来るよう努める

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
課題評価	80
受講姿勢	20

教科書情報			
教科書１	「製図実習」　セラミックコース		
出版社名	大阪芸術大学	著者名	南　和伸
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

陶磁器制作を専門とする立場を活かし、図面から即座に物が作れる”ものつくりによる”より実践的な陶磁器製図を指導する。
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	製図の機能と役割（見やすい図面を作成する基本的な考え方） 製図用具の種類と使用法
2	図面の大きさと様式、線の種類、文字の書き方 正投影法の理解、第一角法と第三角法の比較
3	作図の順序（シャプペンシル書きの順序の理解と修得）
4	其の２
5	其の３
6	補助となる投影図、断面図
7	ワイングラス 直線・コンパスＲ・円定規による結合形態の描き方
8	其の２
9	其の３
１０	図形の省略、陶磁器慣例図示法 寸法記入法
１１	花器 （曲線を基調とした形態のアイデアスケッチの中で複数コンパスＲ等の寸法を求め、その図を記述する） （コンパスによる円弧の連続曲線の描き方）
１２	其の２
１３	其の３
１４	其の４
１５	其の５
１６	陶磁器量産工程の中で図面上大事な個所 陶磁器慣例図示法 寸法補助記号、円弧の寸法記入法
１７	蓋物 （二つ以上の形態が相接する場合の断面図と寸法公差の理解）
１８	其の２
１９	其の３
２０	其の４
２１	其の５
２２	水差し（応用課題） （修得・理解を得た製図知識を基に個々の創造性を生かした正確且つ、明確なる図面を重視する）
２３	其の２
２４	其の３
２５	其の４
２６	其の５
２７	其の６
２８	ティカップ＆ソーサ（自由課題） （機能と実用性を重視する）
２９	其の２
３０	其の３

2021/12/11(土)15:05

科目名	染織表現実習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	竹垣　惠子、舘　正明				
クラス名					

授業目的と到達目標
主に送りの基礎と１枚型での表現を学び、型技法による各自の表現力を養う（竹垣） ろう染めによる表現方法を学び、技法の理解と技術の習得、及びそれらの自己表現への反映を目指す（舘）
授業概要
【対面授業】 型染めとシルクスクリーン（写真製版法）による作品制作から、送りの基礎を学ぶ。また1枚型による型染め作品制作を行う。(竹垣) スケッチ、下絵、染色と三段階のプロセスを踏むことで、スケッチを作品へと昇華させ、絵画的なろう染め作品を制作する（舘）
受講上の注意
授業時間において指示された準備物及び資料等は必ず持参すること。実習に適した服装で出席すること

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
提出作品	80
授業の取り組みへの姿勢	20

教科書情報			
教科書１	適宜プリントを配布する		
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
(竹垣)染色による作品制作で活動する作家が担当する。（舘）ろう染めによる作品制作で活動する作家が担当する。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	授業全体の説明 第一課題　「1枚型」（黒 色差し）の課題説明 プランニング・型紙下絵作り
2	型彫り・糊置き
3	黒 色差し・フィキサー処理・ソーピング
4	各色 色差し
5	各色 色差し フィキサー処理・ソーピング
6	第２課題　「１枚型」（防染糊）の説明 モチーフスケッチ・プランニング
7	型彫り・糊置き
8	色差し・蒸しによる後処理・糊落とし
9	第３課題　「シルクスクリーン（写真製版法・顔料）」の説明 モチーフスケッチ・プランニング
１０	原画フィルム作り・写真製版 プリント
１１	第４課題　「合わせ型」（捺染）の説明 プランニング・型紙下絵作り
１２	型彫り・色彩計画
１３	捺染
１４	捺染・フィキサー処理・ソーピング
１５	合評
１６	後期授業及びろう染め作品についての説明 第１課題　スケッチを基礎とするろう染め制作 色面構成、原寸草稿
１７	第１課題　スケッチを基礎とするろう染め制作 トレース、基本的な制作工程の説明、染色工程開始
１８	第１課題　スケッチを基礎とするろう染め制作 染色工程 ろう置き、染色の繰り返し 第２課題　写真を基礎とするろう染め制作 アイデアスケッチ
１９	第１課題　スケッチを基礎とするろう染め制作 脱ろうソーピング・合評 第２課題　写真を基礎とするろう染め制作 色草稿
２０	第２課題　写真を基礎とするろう染め制作 原寸草稿
２１	第２課題　写真を基礎とするろう染め制作 トレース、染色工程開始
２２	第２課題　写真を基礎とするろう染め制作 染色工程 ろう置き、染色の繰り返し 第３課題　与えられたテーマによるろう染め制作 アイデアスケッチ
２３	第２課題　写真を基礎とするろう染め制作 染色工程 ろう置き、染色の繰り返し

	第３課題　与えられたテーマによるろう染め制作 色草稿
２４	第２課題　写真を基礎とするろう染め制作 脱ろうソーピング・合評 第３課題　与えられたテーマによるろう染め制作 原寸草稿
２５	第３課題　与えられたテーマによるろう染め制作 トレース・染色工程開始
２６	第３課題　与えられたテーマによるろう染め制作 染色工程 ろう置き、染色の繰り返し
２７	第３課題　与えられたテーマによるろう染め制作 染色工程 ろう置き、染色の繰り返し
２８	第３課題　与えられたテーマによるろう染め制作 染色工程脱ろう ソーピング
２９	表装　パネル張り
３０	合評

2021/12/11(土)14:39

科目名	造形芸術演習Ⅰ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	金田　惠美子				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標
造形芸術の表現における種々な「素材」と「技法」を研究し、修得する。 又感性の向上にも心掛け、多様な表現分野に挑戦し、体得する事を目的とする。
授業概要
【対面授業】 現代社会において、表象的な面が優先し、直接的な関わり合いが希薄になっている。作品の制作過程において、積極的に自己を関わらせ、素材と葛藤し、自己とも葛藤する事により、自分の「目」の確かさ・不確かさ、「手」の確かさ、不確かさを実感してもらいたい。又、各自の　専門分野に囚われず、広い視野に立ち、柔軟な発想力を持ち、制作意図・制作過程にも主眼を置いて、種々な表現に挑戦してもらいたいと考える。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・まず造形領域に強い関心を持つ事。 ・授業に積極的に関わりを持つ事。 ・制作に対して真摯に取り組む事。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
提出作品の完成度及び制作過程における態度を含め総合的に評価する。	100

教科書			
教科書１			
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
４０年弱の大学での造形の基礎教育の実務経験を持つ。 専門領域に偏重せず、幅広い造形知識を教授する。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	授業内容（最終回までの進行状況）の説明と諸注意
2	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
3	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
4	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
5	平面Ⅱ—モノクロームの世界 平面の基礎となる「美的形式原理」の理解のためのトレーニングを行う。次週の制作に向けての下準備に取り組む。
6	平面Ⅱ—モノクロームの世界 既成の「筆」を用いず、日常生活の中に存在する「物」を描写道具とし、墨を用いてモノクロームの表現に挑戦する。
7	平面Ⅲ—技法の世界 濃度の高い鉛筆のみを描画材料として、様々な技法を駆使し、鉛筆独得の表材感と鉛色の世界に挑戦する 【Ｂ１　１点作品提出】
8	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
9	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現す る。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
１０	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
１１	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
１２	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
１３	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
１４	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる

	形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
１５	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。

2021/12/11(土)14:40

科目名	造形芸術演習Ⅰ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	杉井　啓三				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標
造形芸術の表現における種々な「素材」と「技法」を研究し、修得する。 感性の向上にも心掛け、多様な表現分野に挑戦し、体得する事を目的と する。
授業概要
対面授業 コロナ感染として消毒、換気、マスク着用をしたうえで、 教室の大きさ、学生の人数のバランスを考慮し対面授業を行う予定。 現代社会において、表象的な面が優先し、直接的な関わり合いが希薄になっている。 作品の制作過程において、積極的に自己を関わらせ、素材と葛藤し、自己とも葛藤する事により、 自分の「目」の確かさ・不確かさ、「手」の確かさ、不確かさを実感してもらいたい。 又、各自の　専門分野にとらわれず、広い視野に立ち、柔軟な発想力を持ち、制作意図・制作過程にも主眼を置いて 種々な表現に挑戦してもらいたい。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・造形領域に強い関心を持つ事。 ・授業に積極的に関わりを持つ事。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
提出作品	90
授業に取り組む姿勢	10

教科書			
教科書１			
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験
教員が、造形作家、アクセサリーメーカー企画室勤務、貴金属装身具製作1級技能士としての経験を活かし、 様々な素材を使った作品の表現方法の基礎を指導する。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス 授業内容（最終回までの進行状況）の説明と諸注意
2	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視 点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
3	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視 点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
4	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視 点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
5	平面Ⅱ—モノクロームの世界 既成の「筆」を用いず、日常生活の中に存在する「物」を描写道具とし、墨・傘紙を用いてモノクロームの表現に挑戦する。
6	平面Ⅲ—技法の世界 濃度の高い鉛筆のみを描画材料として、「フロッタージュ」という技法を手段として、鉛筆独得の表材感と鉛色の世界に挑戦する。
7	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュアまで忠実に再現する。 乾燥後、色の再現へ移行する。
8	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュアまで忠実に再現する。 乾燥後、色の再現へ移行する。
9	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュアまで忠実に再現する。 乾燥後、色の再現へ移行する。
１０	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュアまで忠実に再現する。 乾燥後、色の再現へ移行する。
１１	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュアまで忠実に再現する。 乾燥後、色の再現へ移行する。
１２	立体Ⅱ-素材と形態 石膏テープを基本素材として用い、立体造形に挑戦する。 10センチ×450センチの石膏テープ（ギブス用の包帯）で、自分の頭、手足など、身体の一部を型取りしたものをベースとし、自ら用意した材料を加えて造形し絵具で着彩して、身体に装着する造形作品を制作する。

	出来あがった作品を装着し写真撮影する。 制作するだけではなく、いかに見せるか、までを目標とする。
１３	立体Ⅱ-素材と形態 石膏テープを基本素材として用い、立体造形に挑戦する。 10センチ×450センチの石膏テープ（ギブス用の包帯）で、自分の頭、手足など、身体の一部を型取りしたものをベースとし、自ら用意した材料を加えて造形し絵具で着彩して、身体に装着する造形作品を制作する。 出来あがった作品を装着し写真撮影する。 制作するだけではなく、いかに見せるか、までを目標とする。
１４	立体Ⅱ-素材と形態 石膏テープを基本素材として用い、立体造形に挑戦する。 10センチ×450センチの石膏テープ（ギブス用の包帯）で、自分の頭、手足など、身体の一部を型取りしたものをベースとし、自ら用意した材料を加えて造形し絵具で着彩して、身体に装着する造形作品を制作する。 出来あがった作品を装着し写真撮影する。 制作するだけではなく、いかに見せるか、までを目標とする。
１５	立体Ⅱ-素材と形態 石膏テープを基本素材として用い、立体造形に挑戦する。 10センチ×450センチの石膏テープ（ギブス用の包帯）で、自分の頭、手足など、身体の一部を型取りしたものをベースとし、自ら用意した材料を加えて造形し絵具で着彩して、身体に装着する造形作品を制作する。 出来あがった作品を装着し写真撮影する。 制作するだけではなく、いかに見せるか、までを目標とする。

2021/12/11(土)14:40

科目名	造形芸術演習Ⅰ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	金田　惠美子				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標
造形芸術の表現における種々な「素材」と「技法」を研究し、修得する。 又感性の向上にも心掛け、多様な表現分野に挑戦し、体得する事を目的とする。
授業概要
【対面授業】 現代社会において、表象的な面が優先し、直接的な関わり合いが希薄になっている。作品の制作過程において、積極的に自己を関わらせ、素材と葛藤し、自己とも葛藤する事により、自分の「目」の確かさ・不確かさ、「手」の確かさ、不確かさを実感してもらいたい。又、各自の　専門分野に囚われず、広い視野に立ち、柔軟な発想力を持ち、制作意図・制作過程にも主眼を置いて、種々な表現に挑戦してもらいたいと考える。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・まず造形領域に強い関心を持つ事。 ・授業に積極的に関わりを持つ事。 ・制作に対して真摯に取り組む事。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
提出作品の完成度及び制作過程における態度を含め総合的に評価する。	100

教科書			
教科書１			
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
４０年弱の大学での造形の基礎教育の実務経験を持つ。 専門領域に偏重せず、幅広い造形知識を教授する。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	授業内容（最終回までの進行状況）の説明と諸注意
2	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
3	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
4	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
5	平面Ⅱ—モノクロームの世界 平面の基礎となる「美的形式原理」の理解のためのトレーニングを行う。次週の制作に向けての下準備に取り組む。
6	平面Ⅱ—モノクロームの世界 既成の「筆」を用いず、日常生活の中に存在する「物」を描写道具とし、墨を用いてモノクロームの表現に挑戦する。
7	平面Ⅲ—技法の世界 濃度の高い鉛筆のみを描画材料として、様々な技法を駆使し、鉛筆独得の表材感と鉛色の世界に挑戦する 【Ｂ１　１点作品提出】
8	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
9	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現す る。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
１０	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
１１	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
１２	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
１３	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
１４	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる

	形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
１５	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。

2021/12/11(土)14:40

科目名	造形芸術演習Ⅰ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	金田　惠美子				
クラス名	工芸学科クラス				

授業目的と到達目標
造形芸術の表現における種々な「素材」と「技法」を研究し、修得する。 又感性の向上にも心掛け、多様な表現分野に挑戦し、体得する事を目的とする。
授業概要
【対面授業】 現代社会において、表象的な面が優先し、直接的な関わり合いが希薄になっている。作品の制作過程において、積極的に自己を関わらせ、素材と葛藤し、自己とも葛藤する事により、自分の「目」の確かさ・不確かさ、「手」の確かさ、不確かさを実感してもらいたい。又、各自の　専門分野に囚われず、広い視野に立ち、柔軟な発想力を持ち、制作意図・制作過程にも主眼を置いて、種々な表現に挑戦してもらいたいと考える。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・まず造形領域に強い関心を持つ事。 ・授業に積極的に関わりを持つ事。 ・制作に対して真摯に取り組む事。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
提出作品の完成度及び制作過程における態度を含め総合的に評価する。	100

教科書			
教科書１			
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
４０年弱の大学での造形の基礎教育の実務経験を持つ。 専門領域に偏重せず、幅広い造形知識を教授する。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	授業内容（最終回までの進行状況）の説明と諸注意
2	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
3	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
4	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
5	平面Ⅱ—モノクロームの世界 平面の基礎となる「美的形式原理」の理解のためのトレーニングを行う。次週の制作に向けての下準備に取り組む。
6	平面Ⅱ—モノクロームの世界 既成の「筆」を用いず、日常生活の中に存在する「物」を描写道具とし、墨を用いてモノクロームの表現に挑戦する。
7	平面Ⅲ—技法の世界 濃度の高い鉛筆のみを描画材料として、様々な技法を駆使し、鉛筆独得の表材感と鉛色の世界に挑戦する 【Ｂ１　１点作品提出】
8	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
9	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現す る。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
１０	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
１１	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
１２	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
１３	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
１４	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる

	形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
１５	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。

2021/12/11(土)14:41

科目名	造形芸術演習Ⅰ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	金田　惠美子				
クラス名	美術学科クラス				

授業目的と到達目標
造形芸術の表現における種々な「素材」と「技法」を研究し、修得する。 又感性の向上にも心掛け、多様な表現分野に挑戦し、体得する事を目的とする。
授業概要
【対面授業】 現代社会において、表象的な面が優先し、直接的な関わり合いが希薄になっている。作品の制作過程において、積極的に自己を関わらせ、素材と葛藤し、自己とも葛藤する事により、自分の「目」の確かさ・不確かさ、「手」の確かさ、不確かさを実感してもらいたい。又、各自の　専門分野に囚われず、広い視野に立ち、柔軟な発想力を持ち、制作意図・制作過程にも主眼を置いて、種々な表現に挑戦してもらいたいと考える。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・まず造形領域に強い関心を持つ事。 ・授業に積極的に関わりを持つ事。 ・制作に対して真摯に取り組む事。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
提出作品の完成度及び制作過程における態度を含め総合的に評価する。	100

教科書			
教科書１			
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
４０年弱の大学での造形の基礎教育の実務経験を持つ。 専門領域に偏重せず、幅広い造形知識を教授する。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	授業内容（最終回までの進行状況）の説明と諸注意
2	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
3	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
4	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
5	平面Ⅱ—モノクロームの世界 平面の基礎となる「美的形式原理」の理解のためのトレーニングを行う。次週の制作に向けての下準備に取り組む。
6	平面Ⅱ—モノクロームの世界 既成の「筆」を用いず、日常生活の中に存在する「物」を描写道具とし、墨を用いてモノクロームの表現に挑戦する。
7	平面Ⅲ—技法の世界 濃度の高い鉛筆のみを描画材料として、様々な技法を駆使し、鉛筆独得の表材感と鉛色の世界に挑戦する 【Ｂ１　１点作品提出】
8	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
9	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現す る。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
１０	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
１１	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
１２	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
１３	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
１４	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる

	形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
１５	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。

2021/12/11(土)14:41

科目名	造形芸術演習Ⅰ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	金田　惠美子				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標
造形芸術の表現における種々な「素材」と「技法」を研究し、修得する。 又感性の向上にも心掛け、多様な表現分野に挑戦し、体得する事を目的とする。
授業概要
【対面授業】 現代社会において、表象的な面が優先し、直接的な関わり合いが希薄になっている。作品の制作過程において、積極的に自己を関わらせ、素材と葛藤し、自己とも葛藤する事により、自分の「目」の確かさ・不確かさ、「手」の確かさ、不確かさを実感してもらいたい。又、各自の　専門分野に囚われず、広い視野に立ち、柔軟な発想力を持ち、制作意図・制作過程にも主眼を置いて、種々な表現に挑戦してもらいたいと考える。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・まず造形領域に強い関心を持つ事。 ・授業に積極的に関わりを持つ事。 ・制作に対して真摯に取り組む事。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
提出作品の完成度及び制作過程における態度を含め総合的に評価する。	100

教科書			
教科書１			
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
４０年弱の大学での造形の基礎教育の実務経験を持つ。 専門領域に偏重せず、幅広い造形知識を教授する。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	授業内容（最終回までの進行状況）の説明と諸注意
2	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
3	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
4	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
5	平面Ⅱ—モノクロームの世界 平面の基礎となる「美的形式原理」の理解のためのトレーニングを行う。次週の制作に向けての下準備に取り組む。
6	平面Ⅱ—モノクロームの世界 既成の「筆」を用いず、日常生活の中に存在する「物」を描写道具とし、墨を用いてモノクロームの表現に挑戦する。
7	平面Ⅲ—技法の世界 濃度の高い鉛筆のみを描画材料として、様々な技法を駆使し、鉛筆独得の表材感と鉛色の世界に挑戦する 【Ｂ１　１点作品提出】
8	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
9	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現す る。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
１０	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
１１	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
１２	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
１３	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
１４	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる

	形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
１５	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。

2021/12/11(土)14:41

科目名	造形芸術演習Ⅰ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	杉井　啓三				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標
造形芸術の表現における種々な「素材」と「技法」を研究し、修得する。 感性の向上にも心掛け、多様な表現分野に挑戦し、体得する事を目的と する。
授業概要
対面授業 コロナ感染として消毒、換気、マスク着用をしたうえで、 教室の大きさ、学生の人数のバランスを考慮し対面授業を行う予定。 現代社会において、表象的な面が優先し、直接的な関わり合いが希薄になっている。 作品の制作過程において、積極的に自己を関わらせ、素材と葛藤し、自己とも葛藤する事により、 自分の「目」の確かさ・不確かさ、「手」の確かさ、不確かさを実感してもらいたい。 又、各自の　専門分野にとらわれず、広い視野に立ち、柔軟な発想力を持ち、制作意図・制作過程にも主眼を置いて 種々な表現に挑戦してもらいたい。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・造形領域に強い関心を持つ事。 ・授業に積極的に関わりを持つ事。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
提出作品	90
授業に取り組む姿勢	10

教科書			
教科書１			
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験
教員が、造形作家、アクセサリーメーカー企画室勤務、貴金属装身具製作1級技能士としての経験を活かし、 様々な素材を使った作品の表現方法の基礎を指導する。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス 授業内容（最終回までの進行状況）の説明と諸注意
2	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視 点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
3	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視 点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
4	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視 点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
5	平面Ⅱ—モノクロームの世界 既成の「筆」を用いず、日常生活の中に存在する「物」を描写道具とし、墨・傘紙を用いてモノクロームの表現に挑戦する。
6	平面Ⅲ—技法の世界 濃度の高い鉛筆のみを描画材料として、「フロッタージュ」という技法を手段として、鉛筆独得の表材感と鉛色の世界に挑戦する。
7	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュアまで忠実に再現する。 乾燥後、色の再現へ移行する。
8	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュアまで忠実に再現する。 乾燥後、色の再現へ移行する。
9	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュアまで忠実に再現する。 乾燥後、色の再現へ移行する。
１０	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュアまで忠実に再現する。 乾燥後、色の再現へ移行する。
１１	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュアまで忠実に再現する。 乾燥後、色の再現へ移行する。
１２	立体Ⅱ-素材と形態 石膏テープを基本素材として用い、立体造形に挑戦する。 10センチ×450センチの石膏テープ（ギブス用の包帯）で、自分の頭、手足など、身体の一部を型取りしたものをベースとし、自ら用意した材料を加えて造形し絵具で着彩して、身体に装着する造形作品を制作する。

	出来あがった作品を装着し写真撮影する。 制作するだけではなく、いかに見せるか、までを目標とする。
１３	立体Ⅱ-素材と形態 石膏テープを基本素材として用い、立体造形に挑戦する。 10センチ×450センチの石膏テープ（ギブス用の包帯）で、自分の頭、手足など、身体の一部を型取りしたものをベースとし、自ら用意した材料を加えて造形し絵具で着彩して、身体に装着する造形作品を制作する。 出来あがった作品を装着し写真撮影する。 制作するだけではなく、いかに見せるか、までを目標とする。
１４	立体Ⅱ-素材と形態 石膏テープを基本素材として用い、立体造形に挑戦する。 10センチ×450センチの石膏テープ（ギブス用の包帯）で、自分の頭、手足など、身体の一部を型取りしたものをベースとし、自ら用意した材料を加えて造形し絵具で着彩して、身体に装着する造形作品を制作する。 出来あがった作品を装着し写真撮影する。 制作するだけではなく、いかに見せるか、までを目標とする。
１５	立体Ⅱ-素材と形態 石膏テープを基本素材として用い、立体造形に挑戦する。 10センチ×450センチの石膏テープ（ギブス用の包帯）で、自分の頭、手足など、身体の一部を型取りしたものをベースとし、自ら用意した材料を加えて造形し絵具で着彩して、身体に装着する造形作品を制作する。 出来あがった作品を装着し写真撮影する。 制作するだけではなく、いかに見せるか、までを目標とする。

2021/12/11(土)14:41

科目名	造形芸術演習Ⅰ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	金田　惠美子				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標
造形芸術の表現における種々な「素材」と「技法」を研究し、修得する。 又感性の向上にも心掛け、多様な表現分野に挑戦し、体得する事を目的とする。
授業概要
【対面授業】 現代社会において、表象的な面が優先し、直接的な関わり合いが希薄になっている。作品の制作過程において、積極的に自己を関わらせ、素材と葛藤し、自己とも葛藤する事により、自分の「目」の確かさ・不確かさ、「手」の確かさ、不確かさを実感してもらいたい。又、各自の　専門分野に囚われず、広い視野に立ち、柔軟な発想力を持ち、制作意図・制作過程にも主眼を置いて、種々な表現に挑戦してもらいたいと考える。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・まず造形領域に強い関心を持つ事。 ・授業に積極的に関わりを持つ事。 ・制作に対して真摯に取り組む事。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
提出作品の完成度及び制作過程における態度を含め総合的に評価する。	100

教科書			
教科書１			
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
４０年弱の大学での造形の基礎教育の実務経験を持つ。 専門領域に偏重せず、幅広い造形知識を教授する。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	授業内容（最終回までの進行状況）の説明と諸注意
2	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
3	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
4	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
5	平面Ⅱ—モノクロームの世界 平面の基礎となる「美的形式原理」の理解のためのトレーニングを行う。次週の制作に向けての下準備に取り組む。
6	平面Ⅱ—モノクロームの世界 既成の「筆」を用いず、日常生活の中に存在する「物」を描写道具とし、墨を用いてモノクロームの表現に挑戦する。
7	平面Ⅲ—技法の世界 濃度の高い鉛筆のみを描画材料として、様々な技法を駆使し、鉛筆独得の表材感と鉛色の世界に挑戦する 【Ｂ１　１点作品提出】
8	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
9	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現す る。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
１０	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
１１	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
１２	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
１３	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
１４	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる

	形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
１５	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。

2021/12/11(土)14:42

科目名	造形芸術演習Ⅰ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	金田　惠美子				
クラス名	工芸学科クラス				

授業目的と到達目標
造形芸術の表現における種々な「素材」と「技法」を研究し、修得する。 又感性の向上にも心掛け、多様な表現分野に挑戦し、体得する事を目的とする。
授業概要
【対面授業】 現代社会において、表象的な面が優先し、直接的な関わり合いが希薄になっている。作品の制作過程において、積極的に自己を関わらせ、素材と葛藤し、自己とも葛藤する事により、自分の「目」の確かさ・不確かさ、「手」の確かさ、不確かさを実感してもらいたい。又、各自の　専門分野に囚われず、広い視野に立ち、柔軟な発想力を持ち、制作意図・制作過程にも主眼を置いて、種々な表現に挑戦してもらいたいと考える。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・まず造形領域に強い関心を持つ事。 ・授業に積極的に関わりを持つ事。 ・制作に対して真摯に取り組む事。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
提出作品の完成度及び制作過程における態度を含め総合的に評価する。	100

教科書			
教科書１			
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
４０年弱の大学での造形の基礎教育の実務経験を持つ。 専門領域に偏重せず、幅広い造形知識を教授する。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	授業内容（最終回までの進行状況）の説明と諸注意
2	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
3	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
4	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
5	平面Ⅱ—モノクロームの世界 平面の基礎となる「美的形式原理」の理解のためのトレーニングを行う。次週の制作に向けての下準備に取り組む。
6	平面Ⅱ—モノクロームの世界 既成の「筆」を用いず、日常生活の中に存在する「物」を描写道具とし、墨を用いてモノクロームの表現に挑戦する。
7	平面Ⅲ—技法の世界 濃度の高い鉛筆のみを描画材料として、様々な技法を駆使し、鉛筆独得の表材感と鉛色の世界に挑戦する 【Ｂ１　１点作品提出】
8	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
9	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現す る。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
１０	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
１１	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
１２	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
１３	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
１４	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる

	形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
１５	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。

2021/12/11(土)14:42

科目名	造形芸術演習Ⅰ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	金田　惠美子				
クラス名	美術学科クラス				

授業目的と到達目標
造形芸術の表現における種々な「素材」と「技法」を研究し、修得する。 又感性の向上にも心掛け、多様な表現分野に挑戦し、体得する事を目的とする。
授業概要
【対面授業】 現代社会において、表象的な面が優先し、直接的な関わり合いが希薄になっている。作品の制作過程において、積極的に自己を関わらせ、素材と葛藤し、自己とも葛藤する事により、自分の「目」の確かさ・不確かさ、「手」の確かさ、不確かさを実感してもらいたい。又、各自の　専門分野に囚われず、広い視野に立ち、柔軟な発想力を持ち、制作意図・制作過程にも主眼を置いて、種々な表現に挑戦してもらいたいと考える。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・まず造形領域に強い関心を持つ事。 ・授業に積極的に関わりを持つ事。 ・制作に対して真摯に取り組む事。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
提出作品の完成度及び制作過程における態度を含め総合的に評価する。	100

教科書			
教科書１			
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
４０年弱の大学での造形の基礎教育の実務経験を持つ。 専門領域に偏重せず、幅広い造形知識を教授する。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	授業内容（最終回までの進行状況）の説明と諸注意
2	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
3	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
4	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具（顔料）を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。
5	平面Ⅱ—モノクロームの世界 平面の基礎となる「美的形式原理」の理解のためのトレーニングを行う。次週の制作に向けての下準備に取り組む。
6	平面Ⅱ—モノクロームの世界 既成の「筆」を用いず、日常生活の中に存在する「物」を描写道具とし、墨を用いてモノクロームの表現に挑戦する。
7	平面Ⅲ—技法の世界 濃度の高い鉛筆のみを描画材料として、様々な技法を駆使し、鉛筆独得の表材感と鉛色の世界に挑戦する 【Ｂ１　１点作品提出】
8	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
9	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現す る。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
１０	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
１１	立体Ⅰ−形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土（アーチスタフォルモ・白）を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチュア（肌理）まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
１２	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
１３	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
１４	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる

	形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
１５	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。

2021/12/10(金)14:20

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	杉井　啓三				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標
基礎デッサンを行う。 鉛筆という原始的筆記用具を使ってデッサン力をつける。 透視遠近法、形の把握、表現の仕方、光と影の法則の基礎を学ぶ。 入試のためのデッサン、デッサンのためのデッサン、ではなく、 表現方法の幅をひろげ、イマジネーションを豊かにする。
授業概要
コロナ感染予防として消毒、換気、マスク着用したうえで、教室の大きさ、学生の人数のバランスを考慮し 対面授業を行う予定。 卓上のモチーフを描く静物デッサンを基本とするが デッサン力だけではなく、各自の個性が出しやすいように 表現方法に自由度をもたせた課題を7点制作する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
準備用具の忘れ物に注意 授業に積極的に関わりを持つこと

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
授業に取り組む姿勢	20
提出作品	80

教科書			
教科書１			
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス、デッサン概論、準備用具の説明
2	課題１　立方体（ケント紙で制作）を制作しながら描く。 3点透視法、3面の描き分け
3	課題１　完成、合評
4	課題２　球体と紙コップを描く 曲面のグラデーションの練習
5	課題２　完成、合評
6	課題３　ペットボトルと布 質感表現の練習
7	課題３　完成、合評
8	課題４　精密描写 各自が決めた、手のひらサイズのモチーフを持参し精密描写する
9	課題４　完成、合評
１０	課題５　自画像（マスク着用） 変顔やメイク 、シールを貼るなど 可 完成後、マスク部分にイラストを描くなどの加筆も 可
１１	課題５　完成、合評
１２	課題６　写真の模写 写真、雑誌のカラーページ、などの一部をモノクロで模写する
１３	課題６　完成、合評
１４	課題７　12センチの作品 色彩解禁、CD,DVDケース入るサイズの絵をアナログで描く
１５	課題７　完成、合評、総評

2021/12/10(金)14:20

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	戎谷　真木子				
クラス名					

授業目的と到達目標
基本的な描写を基に自由にイメージをして展開応用する事で、個性的な表現の可能性を追求する。現代における多様な画材や素材を研究工夫し、造形の豊かな表現力を身につける。
授業概要
対面授業 驚く程多様になりスピード化した現代生活の中で、独自の知識思考法を活かした表現を追求する。又、表現する上での基本的な知識の習得や制作に関わる技術の向上を図り、表現の可能性を試みる。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
次回の課題を予告するので、準備物を確認忘れず持参。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
課題と授業態度	100

教科書			
教科書１			
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

洋画家．公益社団法人二科会・絵画部会友．認定NPO法人大阪府高齢者大学講師

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	鉛筆デッサン、トーンスケール、グラビアを使った描写。
2	鉛筆デッサン、トーンスケール、グラビアを使った描写。
3	点描、顔の一部を描く、墨汁、竹串、鏡。
4	点描、顔の一部を描く、墨汁、竹串、鏡。
5	鉛筆デッサン、二つの異なる形の紙コップを描く。
6	鉛筆デッサン、二つの異なる形の紙コップを描く。
7	鉛筆デッサン、折り鶴と小枝を描く。
8	鉛筆デッサン、折り鶴と小枝を描く。
9	感情表現、喜怒哀楽に関わる言葉からイメージして自由制作 描画材表現自由
１０	感情表現、喜怒哀楽に関わる言葉からイメージして自由制作 描画材表現自由
１１	感情表現、喜怒哀楽に関わる言葉からイメージして自由制作 描画材表現自由
１２	鉛筆デッサン、白い布で包まれたものを描く。
１３	鉛筆デッサン、白い布で包まれたものを描く。
１４	合評　作品返却
１５	合評 作品返却

2021/12/10(金)14:21

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	中谷　昭雄				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標
・デッサンは、radical(根源的)である、ことを知る。それは、 ・好きに、自由に、やみくもにたくさん描くこと。つまり、 ・自己の内側からの感覚、感情といった身体性である。また、 ・具体的であるという、直接性でもある。もちろん、 ・表現をすることにおける、間主観性であることは言うまでもない。
授業概要
・ 対面にて行う。 ・「結果」とともに「プロセス」「隔たり」つまり「間」が重要 になる。 ・内容、形式としての“主題と副題”“部分と全体”“緊張と緩和”“強調と省 略" ”主観と客観“”偶然と必然“といった問題など、 ・デッサすることの徹底性による潜在性と差異化と微分化によってデッサ ンが、radical(根源的)である、ことを知る。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・デッサン＝絵を描くことをたくさんすること。 ・そして描くためには、まず見ること、知ること（もちろんたくさん描く ことによって、自然と身についていきますが）。 ・その「プロセス」、「隔たり」つまり「間」を確認しましょう。 ・授業の初めにレクチャーします。遅れないようにしてください。 ・また課題、持参するものなど、忘れないようにしてください。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
課題(プロセス)	50
課題(結果)	30
課題(コミュニケーション)	20

教科書			
教科書１	なし		
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名１	随時配布		
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	

参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
以下の【スケッチブック】は、必需です。: ミューズ 水彩紙 ホワイトワトソンブック F8 239g ホワイト 15枚入り HW-2408 F8 以下の【鉛筆】は、推奨です。: ステッドラー 鉛筆 ルモグラフ ブラック デッサン カーボン芯 4硬度 6本 100B G6
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション（デッサン=絵画について　評価基準について）
2	グレースケールを描く　（10段階のトーンスケール　トーンと質について）
3	デッサンを模倣する（評価基準を設定する）
4	デッサンを模倣する(トリックアート)（評価基準を設定する）
5	絵画（カラー）を鉛筆で描く（評価基準を基に合評）
6	モノクローム写真を見て描く　合評
7	樹木を見て描く（屋外スケッチ）　合評
8	植物を見て描く（屋外スケッチ）合評
9	建物、石、ベンチなど近景を見て描く（屋外スケッチ）合評
１０	山、空など遠景を見て描く（屋外スケッチ）合評
１１	果物3つ以上を見て描く（りんごとバナナといちごなど）合評
１２	家にあるもの２つ以上を見て描く（持参できるもの）合評
１３	持っているもの２つ以上を見て描く（バッグ、靴など）合評
１４	人物を見て描く　合評
１５	まとめと合評

2021/12/10(金)14:22

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	谷口　貞久				
クラス名	工芸学科クラス				

授業目的と到達目標
制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。
授業概要
【対面授業】 基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、 最終的にはグラビアや写真等を使用した想定デッサン（ものを見て描く力だけでなく、 自分の視点や発想を表現するデッサン）を行います。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
作品点と授業態度や授業に取り組む姿勢等、総合的に評価	100%

教科書			
教科書１			
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
子供絵画・中学校～短大・大人の方まで幅広く長年指導した経験を生かし、基礎力向上の授業を行います。 （公社）二科会　会員　　（社）日本美術家連盟　会員

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス 授業説明・デッサンについて・個人用準備物について
2	課題１：基礎デッサン１（全1回） 「グレースケール・紙コップ描写」 鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方
3	課題２：基礎デッサン２（全2回） 「手のデッサン」 形態の把握（骨格や肉付き）や質感・量感、ポーズの取り方
4	「手のデッサン」 形態の把握（骨格や肉付き）や質感・量感、ポーズの取り方
5	課題３：基礎デッサン３（全3回） 「色鉛筆デッサン（組モチーフ）…玉ねぎ・ジュース缶・筆箱」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方
6	「色鉛筆デッサン（組モチーフ）…玉ねぎ・ジュース缶・筆箱」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方
7	「色鉛筆デッサン（組モチーフ）…玉ねぎ・ジュース缶・筆箱」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方
8	課題４：遠近法基礎　（全1回） 「ティッシュ箱描写」 各種の遠近法、モチーフによる遠近法の使い分け
9	課題５：遠近法応用　（全3回） 「構築物デッサン（校内）」 構築物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影
１０	「構築物デッサン（校内）」 構築物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影
１１	「構築物デッサン（校内）」 構築物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影
１２	課題６：想定デッサン　（全4回） 「構築物を利用したシュールレアリズム的作品（色鉛筆をどこかに使用する）」及び合評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
１３	「構築物を利用したシュールレアリズム的作品（色鉛筆をどこかに使用する）」 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
１４	「構築物を利用したシュールレアリズム的作品（色鉛筆をどこかに使用する）」 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
１５	「構築物を利用したシュールレアリズム的作品（色鉛筆をどこかに使用する）」及び合評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方

2021/12/10(金)14:22

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	谷口　貞久				
クラス名	美術学科クラス				

授業目的と到達目標
制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。
授業概要
【対面授業】 基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、 最終的にはグラビアや写真等を使用した想定デッサン（ものを見て描く力だけでなく、 自分の視点や発想を表現するデッサン）を行います。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
作品点と授業態度や授業に取り組む姿勢等、総合的に評価	100%

教科書			
教科書１			
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
子供絵画・中学校～短大・大人の方まで幅広く長年指導した経験を生かし、基礎力向上の授業を行います。 （公社）二科会　会員　　（社）日本美術家連盟　会員

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス 授業説明・デッサンについて・個人用準備物について
2	課題１：基礎デッサン１（全1回） 「グレースケール・紙コップ描写」 鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方
3	課題２：基礎デッサン２（全2回） 「手のデッサン」 形態の把握（骨格や肉付き）や質感・量感、ポーズの取り方
4	「手のデッサン」 形態の把握（骨格や肉付き）や質感・量感、ポーズの取り方
5	課題３：基礎デッサン３（全3回） 「色鉛筆デッサン（組モチーフ）…玉ねぎ・ジュース缶・筆箱」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方
6	「色鉛筆デッサン（組モチーフ）…玉ねぎ・ジュース缶・筆箱」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方
7	「色鉛筆デッサン（組モチーフ）…玉ねぎ・ジュース缶・筆箱」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方
8	課題４：遠近法基礎　（全1回） 「ティッシュ箱描写」 各種の遠近法、モチーフによる遠近法の使い分け
9	課題５：遠近法応用　（全3回） 「構築物デッサン（校内）」 構築物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影
１０	「構築物デッサン（校内）」 構築物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影
１１	「構築物デッサン（校内）」 構築物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影
１２	課題６：想定デッサン　（全4回） 「構築物を利用したシュールレアリズム的作品（色鉛筆をどこかに使用する）」及び合評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
１３	「構築物を利用したシュールレアリズム的作品（色鉛筆をどこかに使用する）」 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
１４	「構築物を利用したシュールレアリズム的作品（色鉛筆をどこかに使用する）」 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
１５	「構築物を利用したシュールレアリズム的作品（色鉛筆をどこかに使用する）」及び合評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方

2021/12/10(金)14:23

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	杉井　啓三				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標
基礎デッサンを行う。 鉛筆という原始的筆記用具を使ってデッサン力をつける。 透視遠近法、形の把握、表現の仕方、光と影の法則の基礎を学ぶ。 入試のためのデッサン、デッサンのためのデッサン、ではなく、 表現方法の幅をひろげ、イマジネーションを豊かにする。
授業概要
コロナ感染予防として消毒、換気、マスク着用したうえで、教室の大きさ、学生の人数のバランスを考慮し 対面授業を行う予定。 卓上のモチーフを描く静物デッサンを基本とするが デッサン力だけではなく、各自の個性が出しやすいように 表現方法に自由度をもたせた課題を7点制作する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
準備用具の忘れ物に注意 授業に積極的に関わりを持つこと

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
授業に取り組む姿勢	20
提出作品	80

教科書			
教科書１			
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス、デッサン概論、準備用具の説明
2	課題１　立方体（ケント紙で制作）を制作しながら描く。 3点透視法、3面の描き分け
3	課題１　完成、合評
4	課題２　球体と紙コップを描く 曲面のグラデーションの練習
5	課題２　完成、合評
6	課題３　ペットボトルと布 質感表現の練習
7	課題３　完成、合評
8	課題４　精密描写 各自が決めた、手のひらサイズのモチーフを持参し精密描写する
9	課題４　完成、合評
１０	課題５　自画像（マスク着用） 変顔やメイク 、シールを貼るなど 可 完成後、マスク部分にイラストを描くなどの加筆も 可
１１	課題５　完成、合評
１２	課題６　写真の模写 写真、雑誌のカラーページ、などの一部をモノクロで模写する
１３	課題６　完成、合評
１４	課題７　12センチの作品 色彩解禁、CD,DVDケース入るサイズの絵をアナログで描く
１５	課題７　完成、合評、総評

2021/12/10(金)14:24

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	戎谷　真木子				
クラス名					

授業目的と到達目標
基本的な描写を基に自由にイメージをして展開応用する事で、個性的な表現の可能性を追求する。現代における多様な画材や素材を研究工夫し、造形の豊かな表現力を身につける。
授業概要
対面授業 驚く程多様になりスピード化した現代生活の中で、独自の知識思考法を活かした表現を追求する。又、表現する上での基本的な知識の習得や制作に関わる技術の向上を図り、表現の可能性を試みる。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
次回の課題を予告するので、準備物を確認忘れず持参。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
課題と授業態度	100

教科書			
教科書１			
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

洋画家．公益社団法人二科会・絵画部会友．認定NPO法人大阪府高齢者大学講師

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション
2	鉛筆デッサン、トーンスケール、グラビアを使った描写。
3	同上
4	点描、顔の一部を描く、墨汁、竹串、鏡。
5	同上
6	鉛筆デッサン、二つの異なる形の紙コップを描く。
7	同上
8	鉛筆デッサン、折り鶴と小枝を描く。
9	同上
１０	感情表現、喜怒哀楽に関わる言葉からイメージして自由制作 描画材表現自由
１１	同上
１２	鉛筆デッサン、白い布で包まれたものを描く。
１３	同上
１４	合評 作品返却
１５	合評 作品返却

2021/12/10(金)14:25

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	中谷　昭雄				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標
・デッサンは、radical(根源的)である、ことを知る。それは、 ・好きに、自由に、やみくもにたくさん描くこと。つまり、 ・自己の内側からの感覚、感情といった身体性である。また、 ・具体的であるという、直接性でもある。もちろん ・表現をすることにおける、間主観性であることは言うまでもない。
授業概要
・対面にて行う。 ・「結果」とともに「プロセス」「隔たり」つまり「間」が重要に なる。 ・内容、形式としての“主題と副題”“部分と全体”“緊張と緩和”“強調と省 略" ”偶然と必然“といった問題など、 ・デッサすることの徹底性による潜在性と差異化と微分化によってデッサ ンが、radical(根源的)である、ことを知る。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・デッサン＝絵を描くことをたくさんすること。 ・そして描くためには、まず見ること、知ること（もちろんたくさん描く ことによって、自然と身についていきますが）。 ・その「プロセス」、「隔たり」つまり「間」を確認しましょう。 ・授業の初めにレクチャーします。遅れないようにしてください。 ・また課題、持参するものなど、忘れないようにしてください。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
課題(プロセス)	50
課題(結果)	30
課題(コミュニケーション)	20

教科書			
教科書１	なし		
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名１	随時配布		
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	

参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
以下の【スケッチブック】は、必需です。: ミューズ 水彩紙 ホワイトワトソンブック F8 239g ホワイト 15枚入り HW-2408 F8 以下の【鉛筆】は、推奨です。: ステッドラー 鉛筆 ルモグラフ ブラック デッサン カーボン芯 4硬度 6本 100B G6
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション（デッサン=絵画について　評価基準について）
2	グレースケールを使ってデッサンを模倣する　（評価基準を設定する）
3	絵画（カラー）のテクスチャーを模倣する（評価基準を設定する）
4	絵画（カラー）を鉛筆で描く（評価基準を基に合評）
5	モノクローム写真のテクスチャーを模倣する　合評
6	モノクローム写真を鉛筆で描く　合評
7	壁を描く（屋外スケッチ）　合評
8	陰影を描く（屋外スケッチ）合評
9	光を描く（屋外スケッチ）合評
１０	空を描く（屋外スケッチ）合評
１１	暗闇を描く　合評
１２	鏡を描く　合評
１３	想像を描く　合評
１４	デッサンの作品　合評
１５	まとめと合評

2021/12/10(金)14:27

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	谷口　貞久				
クラス名	工芸学科クラス				

授業目的と到達目標
制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。
授業概要
【対面授業】 基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、 最終的にはグラビアや写真等を使用した想定デッサン（ものを見て描く力だけでなく、 自分の視点や発想を表現するデッサン）を行います。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
作品点と授業態度や授業に取り組む姿勢等、総合的に評価	100%

教科書			
教科書１			
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
子供絵画・中学校～短大・大人の方まで幅広く長年指導した経験を生かし、基礎力向上の授業を行います。 （公社）二科会　会員　　（社）日本美術家連盟　会員

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス 授業説明・デッサンについて・個人用準備物について
2	課題１：基礎デッサン１（全1回） 「グレースケール・紙コップ描写」 鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方
3	課題２：基礎デッサン２（全2回） 「手のデッサン」 形態の把握（骨格や肉付き）や質感・量感、ポーズの取り方
4	「手のデッサン」 形態の把握（骨格や肉付き）や質感・量感、ポーズの取り方
5	課題３：基礎デッサン３（全3回） 「色鉛筆デッサン（組モチーフ）…玉ねぎ・ジュース缶・筆箱」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方
6	「色鉛筆デッサン（組モチーフ）…玉ねぎ・ジュース缶・筆箱」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方
7	「色鉛筆デッサン（組モチーフ）…玉ねぎ・ジュース缶・筆箱」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方
8	課題４：遠近法基礎　（全1回） 「ティッシュ箱描写」 各種の遠近法、モチーフによる遠近法の使い分け
9	課題５：遠近法応用　（全3回） 「構築物デッサン（校内）」 構築物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影
１０	「構築物デッサン（校内）」 構築物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影
１１	「構築物デッサン（校内）」 構築物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影
１２	課題６：想定デッサン　（全4回） 「構築物を利用したシュールレアリズム的作品（色鉛筆をどこかに使用する）」及び合評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
１３	「構築物を利用したシュールレアリズム的作品（色鉛筆をどこかに使用する）」 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
１４	「構築物を利用したシュールレアリズム的作品（色鉛筆をどこかに使用する）」 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
１５	「構築物を利用したシュールレアリズム的作品（色鉛筆をどこかに使用する）」及び合評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方

2021/12/10(金)14:28

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	谷口　貞久				
クラス名	美術学科クラス				

授業目的と到達目標
制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。
授業概要
【対面授業】 基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、 最終的にはグラビアや写真等を使用した想定デッサン（ものを見て描く力だけでなく、 自分の視点や発想を表現するデッサン）を行います。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
作品点と授業態度や授業に取り組む姿勢等、総合的に評価	100%

教科書			
教科書１			
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名１			
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
子供絵画・中学校～短大・大人の方まで幅広く長年指導した経験を生かし、基礎力向上の授業を行います。 （公社）二科会　会員　　（社）日本美術家連盟　会員

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス 授業説明・デッサンについて・個人用準備物について
2	課題１：基礎デッサン１（全1回） 「グレースケール・紙コップ描写」 鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方
3	課題２：基礎デッサン２（全2回） 「手のデッサン」 形態の把握（骨格や肉付き）や質感・量感、ポーズの取り方
4	「手のデッサン」 形態の把握（骨格や肉付き）や質感・量感、ポーズの取り方
5	課題３：基礎デッサン３（全3回） 「色鉛筆デッサン（組モチーフ）…玉ねぎ・ジュース缶・筆箱」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方
6	「色鉛筆デッサン（組モチーフ）…玉ねぎ・ジュース缶・筆箱」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方
7	「色鉛筆デッサン（組モチーフ）…玉ねぎ・ジュース缶・筆箱」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方
8	課題４：遠近法基礎　（全1回） 「ティッシュ箱描写」 各種の遠近法、モチーフによる遠近法の使い分け
9	課題５：遠近法応用　（全3回） 「構築物デッサン（校内）」 構築物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影
１０	「構築物デッサン（校内）」 構築物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影
１１	「構築物デッサン（校内）」 構築物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影
１２	課題６：想定デッサン　（全4回） 「構築物を利用したシュールレアリズム的作品（色鉛筆をどこかに使用する）」及び合評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
１３	「構築物を利用したシュールレアリズム的作品（色鉛筆をどこかに使用する）」 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
１４	「構築物を利用したシュールレアリズム的作品（色鉛筆をどこかに使用する）」 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
１５	「構築物を利用したシュールレアリズム的作品（色鉛筆をどこかに使用する）」及び合評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方

2021/12/11(土)15:05

科目名	テキスタイルアート実習Ⅰ	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	高橋　亜希				
クラス名					

授業目的と到達目標
織物の基礎的な知識・技術を身につけることを目的とし、様々な織物を各自で織ることにより、どのような構造になっているのかを把握、研究することで個人の創作への足がかりとなることを目標にする。
授業概要
授業は基本、対面で行う（進行状況により遠隔授業になる場合もあり） 織の工程を学び、実際には三原組織を基に、縞織・綴織・カード織・絣織・二重織・組織織による織布（作品）を指導する。さらに素材（植物繊維・動物繊維）の特性や、糸紡ぎや糸染め、仕上げ方法なども指導する。
受講上の注意
作業のしやすい服装で臨むこと。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
提出作品	65
作品に取り組む姿勢	25
ノート・PORTFORIO制作	10

教科書情報			
教科書１	課題に応じてプリント配布		
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名１	楽しいアート		
出版社名	昭和堂	著者名	井関和代・車谷哲明　編著
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
あくまでも予定です。進行具合により変更する場合があります。
教員実務経験
大阪市立クラフトパーク織物常勤指導員 合同会社AkiOriテキスタイルデザイナー

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	織物について 三原組織説明 織り方指導　サンプル制作 縞・格子プランニング
2	遠隔授業 UNIPAにて配信
3	糸染め（直接染料）説明、指導 織物計画指導、作業工程説明 たて糸準備 織り方指導
4	格子　織り 縞・格子　合評 帯プランニング
5	織物計画指導、作業工程説明 たて糸準備
6	織り方指導 帯　織り
7	帯　織り 仕上げ説明 帯　合評 綴織プランニング
8	織物計画指導、作業工程説明 たて糸準備 糸染め（酸性染料）説明、指導
9	織り方指導 綴織　織り
１０	綴織　織り
１１	綴織　織り
１２	綴織　織り 組織織説明 織り方指導　サンプル制作
１３	綴織　織り
１４	綴織　織り
１５	綴織　織り 房の始末 合評
１６	カード織り説明、作業工程指導 カード織（サンプル）　織り オリジナルデザインによるカード織　織り カード織り　合評
１７	絣織プランニング 織物計画指導、作業工程説明 たて糸準備糸 染め説明、指導
１８	絣織 よこ糸準備（絣括り）説明、指導
１９	絣織 よこ糸準備（絣括り） 糸染め
２０	絣織　織り方指導 織り
２１	絣織　織り
２２	絣織　織り
２３	絣織　織り/房の始末 絣織　合評

２４	マフラー制作 織物計画指導、作業工程説明 たて糸準備 よこ糸作り（糸紡ぎ）説明、指導
２５	織り方指導 マフラー　織り 房・仕上げ（縮絨）説明、指導 マフラー　合評
２６	二重織り（裂織）説明 織り方指導　袋織り 仕立て説明 二重織り　合評
２７	2回生全員による小作品冊子 作品プランニング 織物計画指導、作業工程説明 糸準備
２８	小作品冊子 織り
２９	小作品冊子 織り
３０	作品仕上げ 冊子制作 小作品冊子　合評

2021/12/11(土)15:03

科目名	陶器実習Ⅰ	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	南　和伸				
クラス名					

授業目的と到達目標
数々の制作方法を修得する中で、素材の性格を理解し、素材の活用方法を学ぶものとする。その中でも、幅のある思考の展開を基に、個々の創作観を高める。
授業概要
対面授業 陶芸の制作には、最も大切なことは素材である粘土の性質を熟知することである。それには、手びねりによる基礎形態・彫刻形態の成形、石膏型によるクラフト形態の成形、ロクロによる伝統的形態の成形等のクラフト的量産を通じ、先ず粘土に慣れ、その粘土の可塑性を体験した上で、成形の基礎を修得し、各々の制作法を体験する中で、より柔軟な創作思考の育成に努める。
受講上の注意
各課題には、図面・デッサン・エスキース等を提出する事

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
課題評価	80
受講姿勢	１０
デッサン、エスキース	１０

教科書情報			
教科書１			
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名１	陶器実習Ⅱ		
出版社名	大阪芸術大学	著者名	南　和伸
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

陶芸作家、全国公募展会員としての経験を活かし、ヒントを与え本人の可能性を見出しつつも、より幅広い表現方法を習得する事を目指す。
教員実務経験
陶芸創作活動

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	課題説明 道具作り
2	道具作り
3	手びねり制作 曲面のあるかたち
4	其の２
5	手びねり制作 角のあるかたち
6	其の２
7	石膏型制作（長形皿）
8	其の２
9	ロクロ制作（電気ロクロの理解とロクロ技術の修得） 湯呑
１０	其の２
１１	其の３
１２	其の４
１３	石膏型（長形皿）による型起こし
１４	其の２
１５	合評（課題提出）
１６	課題説明
１７	石膏型の原型及び型制作（合わせ型・立体造形）
１８	其の２
１９	其の３
２０	ロクロ制作（鉢） 石膏型（立体造形）による型起こし
２１	其の２
２２	其の3
２３	其の４
２４	其の５
２５	手びねり制作（立体造形） ロクロ制作（円筒を基本とした造形）
２６	其の2
２７	其の３
２８	其の4
２９	其の5
３０	合評（課題提出）

2021/12/11(土)15:03

科目名	陶器実習Ⅱ	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	西川　勝				
クラス名					

授業目的と到達目標
陶芸の基礎的な形態と装飾についての理解を深め、形態と装飾の融合とその可能性を探求する。
授業概要
対面授業　陶芸において装飾は大切な要素である。作られた作品がより魅力的に加飾されなくてはならない。 そのためには、筆描や化粧土によるかき落とし、象嵌、顔料による彩色、施釉など、文様と色彩のバランスを考察しながら授業をすすめていく。
受講上の注意
各課題には、アイデアスケッチ、デッサン、エスキース等を提出する事。 夏季休暇中の研究、論文あり

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
授業に対する姿勢	30
課題作品の評価	70

教科書情報			
教科書１	なし		
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名１	なし		
出版社名		著者名	
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
数多くの公募展入選と百貨店などで個展を開催し、様々な受賞歴を持つ経験豊富な陶芸家が、釉薬　焼成　粘土造形の技術を教え、表現の幅を広げるように する。

教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	課題説明
2	道具作りの説明と種類
3	竹べら、カンナ、こて、トンボなど陶芸で使う道具を作る
4	手びねりによる作品制作をおこなう（曲線または、角のある形体）
5	主に紐づくりによる技術を習得する。
6	形完成後、下絵具(化粧土　白　黒　青などの色化粧）を使い掻き落としによる加飾を行う 赤合わせ土を使用し各５枚、２セット
7	化粧による加飾完了後、素焼き　施釉(透明釉）を行い1230℃で本焼き(酸化焼成）を行う
8	石膏型による長角皿制作　（信楽、赤合わせ各5枚2セット）
9	皿の形が決まれば石膏で型をつくる(石膏の特性と型製作の技術を習得する）
１０	型完成後、タタラ(スライスした板状の粘土）を押し当てて皿の形をつくる
１１	皿の形ができれば乾燥し素焼きをおこなう
１２	素焼き後呉須による加飾を行う（野菜、昆虫などテーマあり）
１３	加飾後本焼きをし、完成
１４	湯呑を轆轤でつくる（電動轆轤の構造理解と成形技術の習得）
１５	轆轤練習（湯呑5セット2組）トンボ、こてなど使い技術を習得する。同時に菊練り、荒モミの訓練を行う
１６	湯呑生地完成後、素焼きをし呉須、色化粧等で加飾する
１７	本焼きして完成
１８	石膏型による造形作品制作（テーマ貝、動物など）
１９	原型製作
２０	石膏型制作（合わせ型）抜け勾配など石膏技術の習得
２１	数点の作品形体完成後、加飾を行う（色化粧など）
２２	素焼き、施釉、本焼きののち完成
２３	轆轤によるボール制作（5個セット）
２４	轆轤技術の向上と加飾の訓練
２５	乾燥、素焼き、呉須による加飾後本焼き（酸化、還元焼成）を行う
２６	手びねりによる造形作品制作（より高度な作品への挑戦）
２７	寸法を大きくし各学生が個々のイメージしたものが形になるよう技術を向上させる
２８	轆轤による制作（円筒を基本とした造形）
２９	轆轤技術の基本である円筒づくりの訓練をする。（粘土3ｋｇに土で　高さ30ｃｍの円筒をつくる） 円筒の形体から胴を膨らし壺状の形を作る練習をする
３０	加飾終了後、乾燥、素焼き、本焼きを行う。還元焼成の理解を習得する

2021/12/11(土)15:00

科目名	プロダクトデザイン演習	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	黒河　兼吉				
クラス名	【１８以降生対象】				

授業目的と到達目標
クリエイターの活動において必要不可欠なデザイン基礎力の習得を目標とする。 工芸領域で活用できるデザインのルールやセオリーを学ぶ。
授業概要
対面授業。 スライドレクチャーやベーシックなデザイン演習、コンピューターを用いたレイアウト編集を行う。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
授業の冒頭に課題説明を行うので遅刻しないこと。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
課題に関する技術的到達度	50
課題に取り組む姿勢	50

教科書			
教科書１			
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名１	デザイン入門教室		
出版社名	SBクリエイティブ株式会社	著者名	坂本伸二
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
陶磁器作家および陶磁器デザイナーである教員がプロダクトデザインにおける実績を活かした指導を行う。

授業計画（各回予定）	

授業回	授業内容
1	ガイダンス テーマ：教員紹介・授業概要の説明等
2	スライドレクチャー テーマ：デザインの概要やプロセスについて
3	コンセプト起案について学ぶ テーマ：日常を見直す 日々の行動や習慣を見直し、デザインの種となるヒントや問題点を見つけ出す演習
4	コンセプト起案について学ぶ テーマ：日常を見直す 日々の行動や習慣を見直し、デザインの種となるヒントや問題点を見つけ出す演習
5	デザインのルールについて学ぶ テーマ：レイアウトの根拠 プロダクトのルーツを調べ、規定されたスペースに根拠を伴うレイアウトを考える演習
6	デザインのルールについて学ぶ テーマ：レイアウトの根拠 プロダクトのルーツを調べ、規定されたスペースに根拠を伴うレイアウトを考える演習
7	撮影について学ぶ テーマ：作品イメージと写真 工芸作品を観察し深く理解した上で、伝えたいイメージを撮影する演習
8	撮影について学ぶ テーマ：作品イメージと写真 工芸作品を観察し深く理解した上で、伝えたいイメージを撮影する演習
9	プロモーションについて学ぶ テーマ：情報の整理 DM制作を通して、情報の優先順位とレイアウトの関係性を学ぶ演習
１０	プロモーションについて学ぶ テーマ：情報の整理 DM制作を通して、情報の優先順位とレイアウトの関係性を学ぶ演習
１１	プロモーションについて学ぶ テーマ：情報の整理 DM制作を通して、情報の優先順位とレイアウトの関係性を学ぶ演習
１２	プロモーションについて学ぶ２ テーマ：デザインフォーマット ポートフォリオ制作を通して分かりやすいデザインフォーマットを考える演習
１３	プロモーションについて学ぶ２ テーマ：デザインフォーマット ポートフォリオ制作を通して分かりやすいデザインフォーマットを考える演習
１４	プロモーションについて学ぶ２ テーマ：デザインフォーマット ポートフォリオ制作を通して分かりやすいデザインフォーマットを考える演習
１５	プロモーションについて学ぶ２ テーマ：デザインフォーマット ポートフォリオ制作を通して分かりやすいデザインフォーマットを考える演習 課題提出。総評を行う。

2021/12/11(土)15:00

科目名	プロダクトデザイン演習	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	黒河　兼吉				
クラス名	【１８以降生対象】				

授業目的と到達目標
クリエイターの活動において必要不可欠なデザイン基礎力の習得を目標とする。 工芸領域で活用できるデザインのルールやセオリーを学ぶ。
授業概要
対面授業。 スライドレクチャーやベーシックなデザイン演習、コンピューターを用いたレイアウト編集を行う。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
授業の冒頭に課題説明を行うので遅刻しないこと。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
課題に関する技術的到達度	50
課題に取り組む姿勢	50

教科書			
教科書１			
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名１	デザイン入門教室		
出版社名	SBクリエイティブ株式会社	著者名	坂本伸二
参考書名２			
出版社名		著者名	
参考書名３			
出版社名		著者名	
参考書名４			
出版社名		著者名	
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
陶磁器作家および陶磁器デザイナーである教員がプロダクトデザインにおける実績を活かした指導を行う。

授業計画（各回予定）	

授業回	授業内容
1	ガイダンス テーマ：教員紹介・授業概要の説明等
2	スライドレクチャー テーマ：デザインの概要やプロセスについて
3	コンセプト起案について学ぶ テーマ：日常を見直す 日々の行動や習慣を見直し、デザインの種となるヒントや問題点を見つけ出す演習
4	コンセプト起案について学ぶ テーマ：日常を見直す 日々の行動や習慣を見直し、デザインの種となるヒントや問題点を見つけ出す演習
5	デザインのルールについて学ぶ テーマ：レイアウトの根拠 プロダクトのルーツを調べ、規定されたスペースに根拠を伴うレイアウトを考える演習
6	デザインのルールについて学ぶ テーマ：レイアウトの根拠 プロダクトのルーツを調べ、規定されたスペースに根拠を伴うレイアウトを考える演習
7	撮影について学ぶ テーマ：作品イメージと写真 工芸作品を観察し深く理解した上で、伝えたいイメージを撮影する演習
8	撮影について学ぶ テーマ：作品イメージと写真 工芸作品を観察し深く理解した上で、伝えたいイメージを撮影する演習
9	プロモーションについて学ぶ テーマ：情報の整理 DM制作を通して、情報の優先順位とレイアウトの関係性を学ぶ演習
１０	プロモーションについて学ぶ テーマ：情報の整理 DM制作を通して、情報の優先順位とレイアウトの関係性を学ぶ演習
１１	プロモーションについて学ぶ テーマ：情報の整理 DM制作を通して、情報の優先順位とレイアウトの関係性を学ぶ演習
１２	プロモーションについて学ぶ２ テーマ：デザインフォーマット ポートフォリオ制作を通して分かりやすいデザインフォーマットを考える演習
１３	プロモーションについて学ぶ２ テーマ：デザインフォーマット ポートフォリオ制作を通して分かりやすいデザインフォーマットを考える演習
１４	プロモーションについて学ぶ２ テーマ：デザインフォーマット ポートフォリオ制作を通して分かりやすいデザインフォーマットを考える演習
１５	プロモーションについて学ぶ２ テーマ：デザインフォーマット ポートフォリオ制作を通して分かりやすいデザインフォーマットを考える演習 課題提出。総評を行う。

2021/12/11(土)15:05

科目名	文様論	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	齋藤　朋子				
クラス名					

授業目的と到達目標
東洋の工芸に施された文様を取り上げ、その流行・変遷・衰退を知り、文様を創造した人々・求めた人々の美意識、異文化の影響、こめられた意味を探る。工芸各分野の技法の発展と文様の変化の関係を学ぶ。 文様を手懸りに、作品を観て感じ、考察したことを自分のことばで表現すること、日本の工芸史への理解を深めることを目標とする。
授業概要
遠隔授業　＊ 第13回～第15回の授業は対面授業に変更 日本の文様を理解する上で、異国、とりわけ中国からの影響は見逃せない。前半は日本への仏教伝来以前の中国の文様、さらに遠く西方に由来する文様が中心となる。後半は異国風文様の和様化、日本独自の文様を取り上げ、近世の西洋との交流にも触れたい。各時代において、工芸技術の発展状況が、異国からの舶載品の国産化や文様の受容に大きく影響することを知るため、作品の細部写真を用いて比較、考察するような工夫をしたい。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
まずは、UNIPAで配信する授業資料を講義前に読んでおくこと。 Zoomによる遠隔授業では、出席と期限内の授業後ミニレポートの提出が必要である。欠席者は申し出により授業の録画閲覧が可能である。未受講のままでのミニレポート提出は認められないので注意すること。こちらにも期限を設ける。 また、授業時に自主学習に役立つように参考図書や作品・展覧会の情報を示す。講義だけではなく、無理のない範囲で実作品を観る機会を持つことが望ましい。デジタル化された博物館資料もまた活用可能である。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
授業後ミニレポート課題	55
学期末レポート	35
平常点（授業・課題への取組み、質問への回答）	10

教科書			
教科書１	各回UNIPAで授業資料を配信する。		
出版社名		著者名	
教科書２			
出版社名		著者名	
教科書３			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名１	漆芸品の鑑賞基礎知識		
出版社名	至文堂	著者名	小松大秀・加藤寛
参考書名２	やきものの鑑賞基礎知識		
出版社名	至文堂	著者名	矢部良明編
参考書名３	日本・中国の文様事典		
出版社名	視覚デザイン研究所	著者名	早坂優子
参考書名４	染と織の鑑賞基礎知識		
出版社名	至文堂	著者名	小笠原小枝
参考書名５			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
美術館の学芸員としての経験から、実際に手に取り観察してきた館蔵品や実見の機会を得た作品などを題材に解説し、作品や展覧会情報も提供していく。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	講義予定と評価について　/　古代日本の文様
2	古代中国の文様（1）青銅器の文様と変遷
3	古代中国の文様（2）神仙世界の文様
4	唐草文の世界　～文様の伝播と変遷～
5	楽園への憧れと花鳥文様　～ササン朝ペルシアの文様の東方伝播～
6	シルクロードと染織品の文様
7	有職文様・家紋について
8	漆芸品にみる唐風文様の和様化
9	日本の工芸にみる文芸意匠
１０	桃山の意匠ー漆器を中心に
１１	異国への憧れー絨毯の文様 日本人と絨毯　/　ペルシア絨毯と文様　/　イスラムの装飾文様
１２	やきものと文様（1） 日本の古代・中世のやきもの
１３	＊ 対面授業を実施する やきものと文様（2） 中世から近世へ　茶の湯とやきもの　/　色彩と文様で飾られたやきもの
１４	＊ 対面授業を実施する 近世の小袖意匠 装いの変遷　/　小袖衣装の変遷
１５	＊ 対面授業を実施する 琳派と工芸意匠 まとめ